

ーグループ討議ー

主題「柔道を通してできる社会貢献について」

平成24年1月28日(土) 20:00～21:00

北海道青少年会館研修室

編集責任: 北海道中体連柔道専門委員長 中川秀樹

合宿二日目の講習会では、東海大四高校柔道部監督 水落先生の講話を受け、参加した選手達が6グループに分かれて討議を行い・まとめ・発表しました。その模様を当サイトにてお伝えします。

なお、彼女たちの真意を尊重するために極力原文のままとしますが、誤字は修正し、氏名は名字のみとしましたことご了解下さい。



討議内容:主題について自分ができること、実際にやっていること、今後やりたいと思うこと等々、
について自由に発言してみよう。(箇条書きでよい)

1班 田中 佐藤 駒 小石川 北出 鎌田 野村 遠藤

発表者:遠藤 記録:鎌田

1. 大会や合宿などにたくさん参加すること。
(出会いの機会があるから)
2. 私生活(主に学校生活)で積極的になれる。
(生徒会長などになる人が多いから)
3. 警察になり、平和にできる。
(柔道をやっているからこそできる職だ。住民を守る)
4. 後輩達の面倒を見ているから、将来の職業に役立てることができる。
5. マナーなどを学べるから、お年寄りのひとなどを助けることができる。
(相手を尊重し合う心を持っているから)



2班 床 中島 杉本 小野 勝木 石井 秋場 小椋

発表者:小野 記録:勝木

1. 柔道を次の世代に伝える。
 - ・日本のスポーツである柔道を守る。
 - ・自分たちが大人になったときに、柔道の指導者になる。
2. 柔道人口を増やす。
 - ・友達をさそう。
 - ・未経験者、初心者でも参加できる、柔道の楽しさや礼儀などを伝える会を開く。
3. 柔道で国際交流。
 - ・自分たちが外国に行ったり、また、日本に来てもらったりする。
 - ・言葉が通じ合えなくても、柔道で世界の人々と仲良くする。
4. 笑顔を与える。
 - ・大会などで活躍して、地域の人たちや家族などを元気づける。
 - ・頑張っている姿を見せて、勇気づける。



3班 相馬 阿部 佐藤 杉村 小林 黒坂 小椋

発表者:小林 記録:佐藤

1. お年寄りの役に立つ
 - ・雪かきをやってあげる。
 - ・買い物をかわりに行く など…
2. 震災で被災された方々に、強い選手が試合をして元気づける。
3. 強い選手の人たちが色々な地域の人たちとふれ合う。
4. 講習会などの回数を増やして柔道をする人達がもっと多くなれば良いと思います。



4班 丹野 倉部 藤島 茶畑 村田 斉藤 佐藤 帯川

発表者:倉部 記録:藤島

1. オリンピックなどをした開催地が豊かになる。
 - ・テレビなどで放送されるからみんなに知ってもらえるし、経済的にも豊かになれる。
2. 礼儀が正しい人が増えて日本の品格が上がる。
 - ・他国の人が日本はすごいって思ってくれる。



5班 大川 尾形 高橋 玉手 井上 鈴木 島 園部

発表者:鈴木 記録:井上

1. スポーツトレーナー、理学療法士

2. 少年団の指導者

少年団の指導者として自分が今まで柔道を通して経験してきたことを次世代の子どもたちに伝え、子どもと共有する時間の中で、自分も人として成長していく。

3. 頑張っている姿を見せて元気にさせる。 by 尾形

6班 千葉 工藤 西 相馬 前谷 伊藤 犬飼 齋藤 浜谷 木村

発表者:工藤 記録:齋藤

1. ボランティア活動として、試合などの際に柔道着を集め、貧しい国に柔道着を贈り、他国との交流を深める。→世界平和につながってほしい。

2. 日大(札幌高)では、部活の一部として市民の安全を守るために交通安全指導をしている。

3. 試合などの際にペットボトルのキャップなどを集めて寄付する。

4. 中学校の柔道の授業の先生のお手伝い。

→柔道のすばらしさを伝え、丈夫な体をつくることができる。

5. 柔道は日本になじみの深いものであるから、たくさんの人々に柔道を見て楽しんでもらって、被災地の方々に勇気を与えたい。



<編集後記(雑感)>

彼女たちが柔道を志したきっかけはそれぞれで、日々指導を受けている環境も様々ですが、さすが「強くなりたい」という志はととも高いということは稽古からも十分に伝わりました。

しかし、こうして彼女らの想いを形にしてみると、それが短時間であっただけに、強くなることは手段であり、目的はさらに高いところにあるということがなおさらよく表現されたと感じます。

また、「精力善用自他共栄」という嘉納師範の教えは、脈々と各地指導者の熱意によって正しく伝承されていることが見て取れ、北海道柔道の進むべき道は揺るぎないものと安心するに至った次第です。

けれども課題も多く、特に中学校における柔道部活動の衰退は悲観すべき事実です。若手指導者の採用やベテラン指導者の適正配置など、行政に対する働きかけも具体的に行わなければ、柔道の持つ教育的な魅力を現場で生かすことすらできません。

もうひとつ。北海道には武道のシンボルたる武道館がありません。大会・稽古・合宿の三要素を一カ所で賄える施設…立派でも豪勢でなくともよいのですが。たとえば付近に銭湯でもあればシャワーすらなくとも、プレハブでも木造でも構わないと思います。

偶然的にグループに分かれたものの、「柔道を通して人の役に立ちたい」ということは皆共通しました。この想いを具現化させるため、周囲の大人達が強力なサポーターとして存在しなければMOTTAINAI。

以上

